

Avastin + FOLFOXIRI療法【60分】

【外科】170【進行性・再発大腸癌】

(第 コース目)

*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:
医師名:	印

身長:	cm	体重:	kg
体表面積:	m ²	Cr:	mg/dL

■レジメン 下記が1コースの投与スケジュール：2週ごとを1コースとする

Day	1	2	8	9	~14
施行日	/	/	/	/	
アバステン	↓	休薬	休薬	休薬	
カンプト	↓	休薬	休薬	休薬	
エルプラット	↓	休薬	休薬	休薬	
アイソボリン	↓	休薬	休薬	休薬	
5-FU	↓	↓	休薬	休薬	

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順	
①	アロカリス注235mg 1V パロノセトロン注0.75mg 1V デキサート注6.6mg 1V デキサート注1.65mg 2A 5%ブドウ糖 100mL 30分
②	●アバステン注【 】mg 生食 100mL 1時間
③	●カンプト注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 1時間30分
※④	●エルプラット注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 2時間
※④	同時に 側管より ●アイソボリン注【 】mg 5%ブドウ糖 250mL 2時間
⑤	生食 50mL 10分フラッシュ
⑥	●5-FU注【 】mg 5%ブドウ糖 120mL 約48時間 baxter infusion pumpで

■投与量 ※投与量の参考

薬剤名	標準投与量
アバステン注	5mg/kg
カンプト注	165 mg/m ² mg/Body
エルプラット注	85 mg/m ² mg/Body
アイソボリン注	200 mg/m ² mg/Body
5-FU注	3200 mg/m ² mg/Body

入力 薬剤師	看護師	看護師

■注意・確認事項

- 中心静脈から投与すること。
- カンプトは腸閉塞患者には禁忌。
- エルプラットは塩化物・塩基性溶液との混和は不可
- アバステンは初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は60分間で行っても良い。
2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分間投与とすることができる。
- アバステンとブドウ糖溶液を混合した場合、アバステン(ベバシズマブ)の力価の減弱が生じるおそれがあるためブドウ糖溶液との混合を避け、アバステンとブドウ糖溶液の同じ点滴ラインを用いた同時投与は行わないこと。
- デカドロン錠8mg(内服オーダ)はday2,3,4に投与する。
- 糖尿病でないことを確認し、必要に応じてジプレキサ錠5mg(内服オーダ)をday1,2,3,4に投与する。